

論文

第六章

世界宗教者平和会議（W C R P）

私はWCRP日本委員会「ストップ・核依存タスクフォース」のメンバーの一員で日本ムスリム協会の徳増公明と申します。

イスラームの立場からお話をさせていただきますが、道德の面につきましては、イスラームは他の宗教とほとんど変わりありません。

さて、私たちにとって、一番大切なものは、命です。

クルアーンでは（（人を殺す者は、全人類を殺したのと同じである。人の生命を救う者は全人類を救ったのと同じである））と、命の大切さを教えています。また、クルアーンで（（誰でも皆死を味わう））と、述べているように、必ず死はやってまいります。しかし、命は神から与えられたもので、私たちは死を迎えるまで、命を大切に守る義務があります。他の命につても同様です。命を大切にしない者は、現世でも来世でも神に罰せられます。ましてや、一瞬にして多くの命を奪う、核兵器を使用することは絶対に許されません。

ところが、歴史を振り返ってみると、人間は互いに争い、殺し合いをしてきました。しかも、近年は、ますます高度な武器を製造し、多量殺人を、犯しています。

私たち宗教者は、人々に、そのような危険な核兵器の廃絶を、訴えなければなりません。

国の政策は、国会議員が決めて、実施するわけですから、国会議員の方々に、我々の決意を伝えることが、肝心です。一昨年1月、私たち日本委員会、ストップ核依存のメンバーは、外務省を訪問し、鷲尾・外務副大臣と、面談する機会がありました。WCRP日本委員会が核軍縮・不拡散議員連盟と一緒に、国連本部に提出するために作成した、核兵器廃止に向けた、共同提言文を、副大臣へ手渡しました。そして、その提言文の内容について

説明し、協力をお願いしました。また昨年6月には、岸外務大臣と面談し、協力をお願いしました。

特に国益や国威発揚のため、核兵器を保有し、他国に脅威を与えるようとしているような政治家の人たちに、強く訴える必要があります。そして、私たちは、神から与えられた英知によって、対話を通して、この問題を解決するよう、努力すべきです。クルアーンでは対話の重要性について、次のように述べています。((人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これは、あなた方を、互いに知り合うようにさせるためである)) (49章13節)。

一方、被爆国である日本は、先頭に立って行動を起こすことが重要です。米国の核に守られている日本ですが、米国国民も、核兵器に対する思いは、日本国民と同じだと思います。日本政府は、自ら核兵器禁止条約に批准し、勇気をもって、米国政府に対して、条約に向けた、強い働きかけをして欲しいと思います。

9月21日～23日までWCRP主催の諸宗教平和円卓会議が東京で開催されました。「戦争を超え、和解」がテーマでした。国内外の、様々な宗教指導者が一堂に会し、世界平和について、率直に話し合をしました。現在、紛争中の国々ウクライナ、ロシア、ミャンマー等からも、出席がありました。

私もWCRP日本委員会、ストップ核依存・タスクフォースの一員として、オンラインで参加いたしました。

この円卓会議の最後に、声明文が発表されました。

私がこの会議を通じて、感じたことを、述べさせていただきます。

現在世界で起きているコロナ感染、ウクライナ問題、環境破壊を、放置

すれば地球と人類の滅亡という危機的な事態に、発展することでしょう。こうした事態を招く、主な原因は、人間の欲望からくる、真理の欠如によるものであり、政治、経済を担う人たちの、大きな責任でもあります。宗教指導者は、人々の真理・良心を、呼び起す任務を遂行しなければなりません。

これらの問題を解決するため当事国が話し合うためには、国連や大国が仲介し、次の点に留意しなければなりません。

その1－領土拡大や、環境破壊の問題があつては、平和は訪れません。

その2－問題解決には、武力ではなく、対話でなくてはなりません。

そして対話を成功させるためには、次の点に注意しなければなりません。

その1－他者の立場を尊重し、解決するための、条件、方法を見出さなくてはなりません。

その2－宗教、国境、人種を乗り越えた、真理・良心に基づいたものでなくてはなりません。

その3－基本的人権・平等・自由を尊重したもので、理論的なものでなくてはなりません。

その4－お互いの慈悲や赦しと愛がなければなりません。

一方、この円卓会議の成果を、公表するだけではなく、実行しなければなりません。

実際に、この世界を動かし、リードしているのは政治家たちです。私たち宗教者は、この会議の成果を、政治家たちに進言し、平和を希求するため、かれらと一緒に、行動しなければなりません。

最後に、核兵器のない世界が一日も早くやってくることを、祈っています。

（2023年4月10日）

第七章

エッセイ（随筆）

人体の不思議；

最近耳垢が気になったので耳鼻科のクリニックへ行った。医師に見てもらったら鼓膜に耳垢がへばりついているので薬局で液体の薬剤を購入し耳にしみこませて欲しいと言われた。家に帰って横になり薬剤を入れたら耳が水分で塞がれた。同時に心臓から送られて来る鼓動が途絶えることなく聞こえる。この鼓動が生まれてから休むことなく鳴ることに改めて驚嘆した。これこそ神業でアッラーからの贈り物である。改めてアッラーに感謝する。

(2024年4月16日)

林試の森公園の物語；

我が家の近くに大きな公園がある。高齢の身体を維持するため毎日散歩に出かけている。

特に歩くことさえ苦痛観を感じることもゆえ、足を鍛えることが必要になった。

昔の農林試験場だったので大きな大木や100年を超えた大木や海外から入ってきた木も多数存在する。こうした木を観察しながら歩くのも楽しみであるが、様々な人に会えるのも楽しみである。道路では散歩する人、ランニングする人、ベンチでは読書する人、スマホに夢中になっている人、話し合っている若い男女、広い運動場ではサッカーや野球やテニスの練習する人、池の魚に餌をあげる人、——品川区と目黒区の住民の憩いの場となっている。また夏には夏休みの宿題のためか親子で蝶々などの昆虫探しまわっている。

(2022年8月20日)

公園の所々にベンチがある。歩き疲れると座って様々な光景を見ること

ができる。

鳩が餌をもらうために近づいてくる。人間慣れしているようで脅かしても逃げようとせず餌を催促する。公園では糞で汚すため餌を挙げないようにと忠告されている。野良ネコも同様である。また蟻が一生懸命小さな体で食物を運び自分たちで掘ったのか穴の中に運んで行く。かれらも生きるため必死になって餌を求めている。私たち人間は動物・魚・植物を食料とし健康を維持している。また料理しグルメまでして楽しんでいる。もし飢饉などで食糧が不足したら必死になって探しまわり争奪戦になるかもしれない。

(2023年1月12日)

しばしば盲導犬訓練の光景が見られる。6匹の犬が飼い主と一緒に指導員の指示に従い10m程歩き回転して元の位置まで戻る。犬たちは素直についてくる。次は1匹ずつ同じことを行う。今度は飼い主の指示に従って犬が歩く。このことができるようになった盲目の人が犬を指示して歩くとが可能になるのだろう。元々犬は飼い主の言うこと素直に聞く動物のようだ。飼い主は犬を自分の子供のようにかわいがるのだろう。

林試の森の真ん中に大きな池があり、池があり、魚や鶯が住んでいる。また亀も10匹程住んでいて、太陽の光が当たると池に浮かんでいる大木の上に一列に並び、日光浴をしている。

(2023年4月7日)

神に感謝；

神は万物を創造された。その中で地球は宇宙中では小さな存在だ。地球に他の多くの惑星がありその光が届くまでに数万年、数億かかるものがあるという。ほとんどの人類の寿命は100年以内である。わたした

ちは小さな小さな存在であることが分かる。

また私たちは奇跡的に生まれてきたわけであるが神から授かった命を大切に全うしなければならない。神は私たちに幸せに過ごすために様々な恩恵を与えてくださった。食欲、物欲、性欲や他の動物にない英知、言葉である。一人一人に平等な人権、自由も与えられた。また生命を維持するために、動物、植物、魚類の生命を奪い食べることも許された。だからと言ってこのような行為を勝手に振舞ってはならない。

私たちを地上で特別な存在に創造してくださった神に感謝しなければならない。礼拝・祈りは偉大な神の存在を意識させてくれ、感謝する重要な行為である。神は、わたしたちが健全で幸せに過ごすことができるように、生き方の規範を示したメッセージを、預言者を通して伝えられた。そのメッセージを遵守しなければならないのに私たちは軽視しているため社会は様々な問題に直面している。

また、一部の人間が欲望にかられ利己主義に走り、競って財を成すことに夢中になっているため、そのため争い生じ、強いては戦争、紛争まで発展し、平和な社会が実現していない。

また、私たちは瞬間に過ぎていく時間の中で、死に向かって生きていることを忘れてはならない。来世、神の厳しい裁きがあることも忘れてはならない。現世で私たちは試練の中に立たされているのである。

ニューヨークでの9・11事件以来イスラームに対する見方は日本でも厳しいものだった。一部のムスリムと称する過激主義者が事件を起こすたびに私たちは心を痛める。そして、非難声明を公表している。イスラームは中庸を勧め過激主義や暴力や戦いを戒めている。幸い日本ではこうした事件は発生していない。

クルアーン ((災いなるかな、凡ての悪口を言って中傷する者。財を集めて計算するのに余念のないもの。本当にその財が、かれを永久に生かすと考えている。断じてそうではない。かれは必ず業火の中に、投げ込まれる)) (104章1～4節)。

((アリフ・ラーム・ミーム。それこそは、疑いの余地のない啓典である。その中には、主を畏れる者たちへの導きがある。主を畏れる者たちとは、幽玄界を信じ、礼拝の務めを守り、またわれが授けたものを施す者。またわれがあなた(ムハンマド)に啓示したもの、またあなた以前の預言者たちに啓示したものを信じ、また来世を堅く信じる者たちである)) (2章1～4節)。

((このようにわれは、あなたがたを中正(中庸)の共同体とする)) (2章143節)。

一人の生命は全地球より重い；

この言葉は1977年日航機ハイジャック事件で当時の福田総理が人質の命と引き換えに述べた言葉。最近簡単に人を殺す事件が多い。犯人はこの言葉をかみしめて欲しい。

(2024年7月9日)

自分史(だるまへの願い)を作成して思ったこと一出会いの大切さ；

袖に触れるも何かの縁と言うように、人生は人との出会いが大きく影響していると思う。

幼年時代；もしアメリカ人のジュリーと文通しなかったら、ジュリーの父親ビドルの支援がなく大学へ行けず、田舎で百姓になったであろう。

拓殖大学の時；もし父の幼馴染の斎藤先生に出会わなかったら、イスラームを知らずカイロへ留学することもなかっただろう。

アズハル大学時代；もしアラビア語の勉強をシャイクから教わらなかったらアズハル大学に入学できなかっただろう。もし一緒に勉強してくれる現地人がいなかったら卒業できなかっただろう。

湾岸戦争の時；

もし中東戦争がなかったら妻に出会うことがなかっただろう。

アラビア石油時代；もしアズハル、拓大の先輩・浜田明夫氏がいなかったらアラビア石油に入社できなかっただろう。もしアラビア石油のクウエイト事務所の人たち会わなかったら、人質にはならなかっただろう。もし日本人妻たちがバクダードへ来てくれなかったら、危険にさらされたであろう。

高齢者時代；

もし道路で転倒し通行人が救急車を呼んでくれ病院へ移送されなかったら命が危なかっただろう。もし子供、孫が授からなかったら生きる楽しみも半減するだろう。もし大リーグに大谷祥平選手がいなかったら野球は好きだがテレビ観戦はしないだろう。もし長生きしたら昔の友人に会いに行くだろう。

(2024年7月28日)

徳増 公明『私のイスラーム観』

